

2025年度フィールドスタディ・地域活性化論実施報告(ホームページ掲載)

科目名	フィールドスタディD	教員名	新宅 純二郎
実習先	パナソニック、ヤマハ発動機、JFE スチール		
実習期間	2025年11月～2026年1月		
テーマ	製造業現場のフィールドワーク		

目的(実習のねらい):

1. 調査対象について、事前調査のために、適切な文献・資料などを収集整理する能力を身に付けること。
2. 収集した文献・資料をもとに、現場観察につながる課題設定ができること。
3. 現場で聞いたこと、見たことなどを、フィールドノートとして詳細かつ正確な記録を残すこと。
4. 事前学習とフィールドノートをもとにして、適切なレポートを作成できること。

実習報告:

A) パナソニックコネク ト 甲府工場

グローバル市場でトップシェアの製品を生産する工場の強みについて学習する。とくに、現場ワーカーの人材育成の考え方と仕組みについて学んだ。

スケジュール 2025年11月11日

13:20-14:00 工場紹介、改善事例紹介

14:00-15:30 工場見学、社内学校見学

15:30-16:30 質疑・ディスカッション

B) ヤマハ発動機 磐田南工場

製造業におけるDXは、どのような問題にどのように取り組んできたか、また、DXが進展する過程でどのような経営問題があったか、その課題をどのように克服してきたか、さらに、DX人材をどのように育成しているかを学ぶ。製造業DXで先進的な取り組みをしているヤマハの現場を具体的に観察した。

スケジュール 2025年12月9日

13:00～14:00 ヤマハ発動機紹介 / 製造DX活動(バリューイノベーションファクトリ、現場サイエンティスト、内製化など)

14:00～15:00 内製DX ショールーム

15:00～16:00 現場サイエンティスト から、現場報告

16:00～16:30 現場サイエンティスト教育 風景 視察

16:30～17:00 質疑・まとめ

C) JFEスチール(株) 東日本製鉄所 千葉地区

現在の鉄鋼生産の技術と現場見学で学びつつ、鉄鋼企業が脱炭素のために取り組んでいる新しい技術開発についても学んだ。現在の生産技術については、現場の詳細な説明を受けながら、日本の鉄鋼企業が今もなお維持している強みの源泉を理解できた。また、日本で排出されるCO₂の多くを占めている鉄鋼産業（高炉では大量の石炭を燃やす）として、どのように脱炭素を目指すかについても学んだ。脱炭素のための製鋼技術や、それを社会に実装するための戦略について学んだ。

スケジュール 2026年1月6日

14:00～14:40 会社概要説明&見学準備

14:40～15:50 見学 高炉（車窓）、製鋼・連続鋳造工場、3熱延工場

15:50～17:00 GX戦略説明&QA

成果:

製造の現場、およびその産業が抱える課題への対処計画を実際に見聞することによって、現場でどのような問題が起きて、それをどのように工夫して解決しているかを、身をもって理解することができた。学生にとって、実際の現場での問題解決や仕事の進め方について、直接見聞することができるたいへん貴重な経験であった。

また、現場見学をベースにして、フィールド調査ノートをどのように作成するかについても、実地学習することができた。

その他:

参加した経営学部 of 学部生は、製造現場からの学びについて深い関心をもつようになり、また、就職先としての製造業にも興味をもったようだ。

学生の向上度:

本や資料だけで学ぶだけでなく、現場から学ぶことの重要性を知ったことが何よりも向上したことである。

以上